

愛媛大学のサークル活動の現状と課題

不 動 俊 樹

Club Activities in Ehime University

Toshiki FUDO

はじめに

サークル活動は、正課教育だけでは果たし得ない友情・責任感・協調性等、学生の人間形成に大いに貢献し、将来社会人として責任ある行動のできる豊かな人間性を育てるものとして教育上重視されている。愛媛大学もこれらの活動に対して種々の援助を行っている。本論文では、サークル活動の現状と課題について整理することで、今後のサークル活動支援のあり方を検討する材料にしたい。

5,400人の学生がサークルに所属して活動を行っている(表1)。これは、全学生の約65.1%に当たる。

しかし、学生の課外活動は、全国的に以前に比べて減少の傾向にあるといわれている。本学でも同様の傾向を見ることが出来る。平成5年度には3,467名であった全学公認団体部員数は、平成15年度には2,778名となっている(図1)。また、在籍者数に対して全学公認団体への入部率が、平成5年度では41.1%であったのが平成15年度では33.6%で7.5%も減少している(図2)。

1. 愛媛大学のサークル活動の概況

愛媛大学には、6学部約8,300人の学部学生が在学している。現在本学には、全学公認団体が体育系サークルで56団体、文化系サークルで49団体あり、約2,800人が所属している。また、学部独自の公認団体が体育系サークルで39団体、文化系サークルで50団体あり、約2,600人が所属している。総勢約

2. 部員数・団体の廃部状況

体育系サークル団体の内、比較的伝統があり活動実績もあるインカレ出場団体(26団体)の部員数は、10年前に比べ23.3%減少している。また、文化系の主要サークル団体(21団体)では、15.9%に減少している(図3)。

体育系サークル団体では、平成12年度に体操部が

表1 サークル数と部員数(2003年度)

	サークル数			部員数		
	体育系	文化系	計	体育系	文化系	計
全学団体	56	49	105	1,575	1,203	2,778
法文学部	8	9	17	242	157	399
教育学部	5	21	26	300	666	966
理学部	2	3	5	33	79	112
医学部	19	14	33	519	313	832
工学部	2		2	57		57
農学部	3	3	6	155	32	187
計	95	99	194	2,881	2,450	5,331

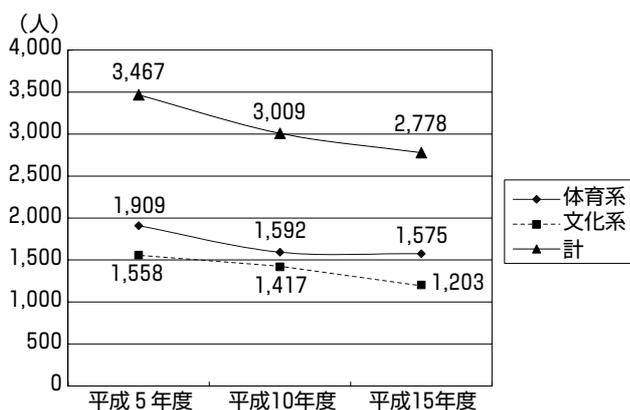


図1 全学公認団体部員数の推移

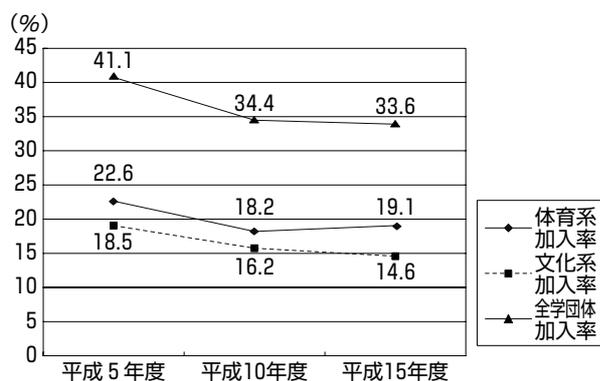


図2 全学団体加入率の推移

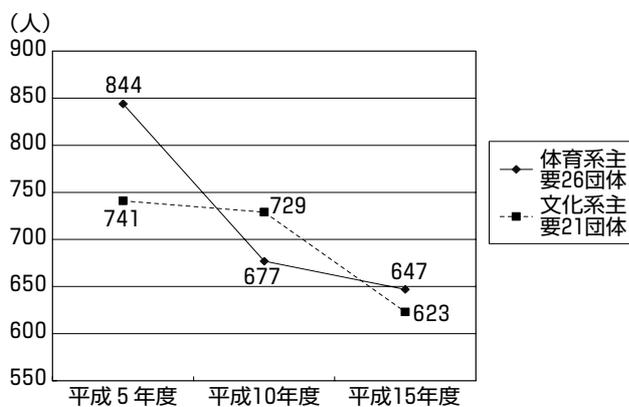


図3 主要団体の部員数の推移

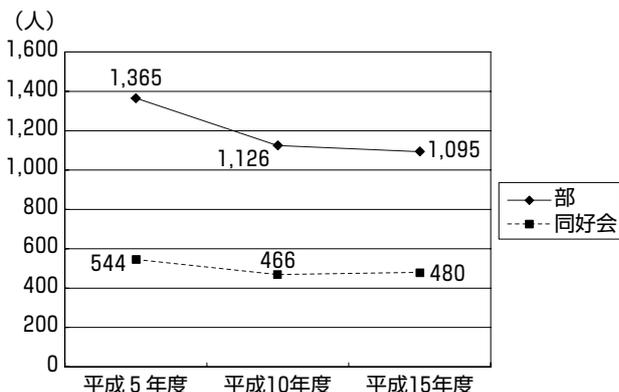


図4 部と同好会(愛好会)の部員数(体育会)

廃部になり(平成14年度復活)、平成13年度には山岳部・応援団が廃部になった。文化系サークル団体では、平成15年度にV.Y.S.・アマチュア無線クラブが廃部になった。

学生からの声も踏まえて、部員数や廃部状況を考えると、下記のことが指摘できる。練習量の多い団体や上下関係の厳しい団体、伝統ある団体の部員数が減少してきている。一方で、同じ学年同士で自由に参加できて楽しくやれる愛好会や同好会に入部する学生が増えてきた(図4)。また長引く不況という社会背景から、親のリストラ等の経済的な理由によりアルバイトを余儀なくされる学生が増え、練習時間の長い部が敬遠されることもその要因の一つであると思われる。実際に、部の存続を図るために、練習時間を減らした団体も出ている。

3. 活動場所

①部 室

第一共用施設(鉄筋造2階建1,008㎡)に33団体(主に文化系)・第二共用施設(鉄筋造平屋建339㎡)に18団体(主に体育系)・第三共用施設(鉄筋造2階建950㎡)に20団体(主に体育系)が入っている。残りの34団体には部室がない。

各部室は一つの室をベニヤ板や保管庫で仕切ったもので、安全面やプライバシー面において充分ではなく、また、音楽系サークルも同居しているため騒音問題等もしばしば起こっている。人手不足、予算不足等で、十分な管理ができていないのが現状である。今後、使用時間、整理整頓、ゴミ出し、清掃等部室の管理は、サークル同士のネットワークを構築することで自主管理に委ねようと考えている。

②運動施設

運動施設として、山越地区、城北キャンパス、梅津寺、伊予市の4地区に分散した施設がある。山越地区には山越運動場(野球場・陸上競技場・サッカー場・ラグビー場・馬場・小運動場)、城北キャンパスには記念講堂・第一体育館・第二体育館・武道場・プール・テニスコート・筋肉トレーニング室、梅津寺にはボート艇庫、伊予市にはヨット艇庫がある。

山越運動場、体育館、テニスコートは、利用団体が多く毎月上旬に使用調整会を実施している。記念

講堂は、主に卓球部・空手道部が使用しているが、昭和30年に寄贈された建物で老朽化が激しく補修及び立て替えを要する。筋肉トレーニング室は、第二体育館1階のピロティに、一面をナイロンネットで囲んだだけのもので、主にコンビネーションマシン2台と東面壁にクライミングウォールを設置している。一面がナイロンネットであるため、外部からの塵・ゴミ・雨の進入があり、機器の老朽化を早めている。

トレーニング室を完備し、機器の更新・充実等が早急に必要である。

③集会室

大学会館2階・3階には、203号(和室21畳)・204号(和室21畳)・301号(収容人員約30人)・302号(同約40人)・303号(同約40人)・304号(同約50人)・305号(同約150人)室があり、ミーティング、展示場、音楽・演劇等の練習場として使用している。また、学会等でも使用しているが、冷房設備が無く会議、研修会等には不便を来している。

4. 課 題

①隣接住民との騒音等のトラブル

第一共用施設は、音楽団体も入っており、北側に民家が隣接しているため、騒音等の苦情が頻繁にあった。特に音量の大きいロックバンド系2団体を民家に隣接していない第三共用施に移転し、二重サッシ窓にするなどして対処した。苦情が少なくなったが、今後は、防音室の設置などで万全を期したい。

②金銭面の援助体制の早期確立(遠征費の一部負担等)

現在、キャンプ用品等の貸し出し、物品の購入等物質面の支援はしているが、遠征費等の経済的支援は行っていないのが現状である。各学部団体には、学部の後援会からの経済的支援が比較的しやすいが、全学団体にはそうした資金源が存在していない。2002年度において、学生生活委員会では、課外活動を支援し推進することを目的として「課外活動後援会」を設立しようと議論をしたが、実現するまでには至っていない。

③カルト集団の対策

「アンケートに答えたらその後、執拗に付きまといわれた。」「学外の集会所に連れて行かれてビデオを見せられる等30分程軟禁された。」「実態がないのにサークルと称して勧誘活動をしている。」「といった苦情が、学生生活課には相次いで寄せられている。こうしたカルト集団は特に新入生をターゲットにしており、希望に燃えて入学した学生を責任を持って守るためには、何らかの組織だった対策が必要であるが、有効な解決策を見出せていないのが現状である。情報収集と告知・啓発活動に力を入れたい。

5. おわりに

本学学生の課外活動は、部員数も減少し衰退してきている。また、課外活動施設・設備も老朽化が目立ち整備の必要があり、金銭面の支援体制もできていないのが現状である。これらを解消し、課外活動を活性化させるためには、組織だった見直しが必要である。

学生の課外活動は、単に「正課教育を補完するもの」ではなく、人間教育助長の場として捉え、「大学教育の一環である」ということをまず教職員に理解してもらうことが大切である。予算の確保、支援体制づくり、施設・設備の充実などの方策について、全学レベルで検討する必要がある。